

診 療 科 研 修 コ ー ス  
診療科研修名【消化器科コース】

1 . 診療科 ( 専門領域 )

消化器科

2 . コースの概要

内科系基礎プログラムと消化器科プログラムを研修

3 . 取得資格

3 年を終了した者に、国立病院機構による診療認定医 ( )

4 . 長期目標

- ・消化器症状 ( 全身倦怠感、食欲不振、体重減少、浮腫、黄疸、嘔気・嘔吐、胸やけ、嚥下困難、腹痛、下痢、便秘等 ) の患者に対し、詳細な病歴の聴取と系統的・正確な身体診察
- ・消化器急性期疾患に適切に対応できる診断能力の修得
- ・消化器疾患に対して効率的な検査・治療計画の立案と修正
- ・実施する検査・治療の適応・方法・合併症を理解し、十分なインフォームドコンセントを行う
- ・関係各科・コメディカルと協同した診察の実施

5 . 取得手技

- ・経鼻からの挿管術 ( S-B チューブ、イレウス管、小腸造影 )
- ・栄養法 ( 経管経腸栄養、中心静脈栄養、内視鏡的経皮胃瘻造設術 )
- ・内視鏡検査・治療 ( EUS、EMR、ESD、EIS、EVL、ERCP、ERDB、EPBD、EML、EST、EMR 等 )
- ・一般超音波検査及び超音波ガイド下検査・治療 ( PEIT、RFA、PTCD、PTGBD、PTAD 等 )
- ・消化管造影検査、放射線科協力による検査・治療 ( 腹部動脈造影、TAE、PTP )
- ・透析室協力による治療 ( 白血球除去療法、血漿交換療法 )

6 . 研修期間

3 年間

7 . 募集人数

3 名

8. 前年度診療科の実績と目標症例数 入院あるいは外来診療での経験件数

主要疾患	症例数(年間)	目標症例数(3年間)
食道癌	20	10
食道静脈瘤	50	10
胃癌	40	20
出血性胃・十二指腸潰瘍	50	20
大腸癌	20	10
潰瘍性大腸炎、クローン病	20	10
肝細胞癌	40	20
C型慢性肝炎	30	10
膵・胆道癌	30	10
総胆管結石	50	20

手技	件数(年間)	目標件数(3年間)
腹部超音波検査	3300	1000
上部/下部消化器内視鏡	3100 / 2200	1000 / 800
食道静脈瘤硬化療法・結紮術	45	15
内視鏡的止血術	40	20
内視鏡的粘膜下層剥離術(E S D)	30	5
P E G	20	20
大腸E M R	350	180
E R C P	220	150
経皮経肝胆道ドレナージ	15	10
ラジオ波焼却術(R F A)	50	20
腹部血管造影	170	40

9. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 9名、非常勤 1名

診療科研修の指導にあたる医師 9名(消化器科常勤医師)

主として研修指導にあたる医師の氏名/診療科経験年数

脇岡 泰三(統括診療部長)	29年
増田 栄治(消化器科医長)	27年
中西 文彦(消化器科医長)	18年

10. コンセプト

- ・患者及び医療従事者から信頼される消化器内科専門医の育成のため、臨床経験と高度な知識・技能の修得を目標
- ・緩和・終末期医療にも携わる消化器研修を通して、疾患だけに注目せず患者を全人的に理解し、人間関係確立のコミュニケーションスキルも身につける

11. 一般目標

- ・消化器症状(全身倦怠感、食欲不振、体重減少、浮腫、黄疸、嘔気・嘔吐、胸やけ、嚥下困難、腹痛、下痢、便秘等)の患者に対し、詳細な病歴の聴取と系統的・正確な身体診察
- ・消化器急性期疾患に適切に対応できる診断能力の修得
- ・消化器疾患に対して効率的な検査・治療計画の立案と修正

- ・実施する検査・治療の適応・方法・合併症を理解し、十分なインフォームドコンセントを行う
- ・関係各科・コメディカルと協同した診察の実施

### 1 2 . 関連領域の研修に関して

施設内での研修	<input type="checkbox"/> 可能	<input type="checkbox"/> 不可
施設外との交流研修	<input type="checkbox"/> 可能	<input type="checkbox"/> 不可
研修領域の決定		

本人の意向を研修責任者が聴取し、本人と相談して決定

### 1 3 . 共通領域研修について

- ・医療安全管理研修会の開催（年4回）
- ・消化器科、外科、放射線科との合同カンファレンス（月1回）
- ・がん診療アップデート（地域がん診療拠点病院としての研修）（年2回）
- ・カンサーボード（年10回）